

尼崎市立歴史博物館第5回特別展
豊臣期の尼崎と建部氏三代
開催要項

1 開催趣旨

豊臣期に尼崎郡代として近辺の豊臣氏直轄領を管轄した建部寿徳(1537-1607)は近江出身の武士で、織田信長に仕えた後、羽柴(豊臣)秀吉に仕え、若狹郡代を経て尼崎郡代となり、戦役での兵馬・兵糧の調達・搬送に従事する一方、太閤検地や社寺造営の奉行を務めるなど、主に軍備・内政で手腕を発揮し豊臣政権を支えた。尼崎郡代は子の光重(1578-1610)、孫の政長(1603-72)に継承され大坂の陣を迎える。若年の政長は親族池田(下間)重利とともに徳川方として尼崎城を堅守し、陣後、その功績によって1万石を給付され初代尼崎藩主となるが、2年後に播磨国林田(現姫路市)に転封となった。

建部氏三代が尼崎で郡代、そして藩主として任にあたっていたのは安土桃山時代後半から江戸時代初期にかけての約30年に及ぶ。この間、尼崎は中世以来の港湾を中心として発達した流通・経済都市から、新城と城下町が整備された軍事・政治都市へと変貌を遂げるが、藩主在任わずかですぐに転封したこともあって、建部氏の足跡は尼崎にほとんど残っておらず、事績についてもあまり知られていない。

豊臣秀吉・秀長兄弟を主人公とする大河ドラマの放映が令和8年1月から始まることが報道されており、令和7年下半期には、その放映に先立って豊臣期に関する関心が世間一般に高まるのが予想される。そこで、これまで注目されてこなかった尼崎郡代で初代尼崎藩主を務めた建部氏三代の足跡や事績を中心に、中世から近世への移行期にあたる豊臣期の尼崎の激動の歴史を振り返る。

2 会 期

令和7年(2025)10月1日(水)から11月30日(日)まで

開館時間：午前9時から午後5時まで(入館は午後4時半まで)

3 休館日

月曜日(ただし祝日の場合は開館し、直後の平日が休館)

4 主 催

尼崎市教育委員会

5 会 場

尼崎市立歴史博物館 3階 企画展示室・展示学習室

6 観覧料金

無 料

7 展示構成と主な展示候補資料

(1) 大坂と尼崎

- ・羽柴秀吉朱印状[10月23日、加藤孫六宛]【大阪城天守閣蔵】
- ・豊臣秀次朱印状[卯月13日、石川久五郎宛]【当館蔵】＜尼崎市指定文化財＞
- ・洛中洛外図屏風【当館蔵】

(2) 尼崎郡代建部氏

- ・豊臣秀吉朱印状[10月8日、建部寿得軒他2名宛]【当館蔵】＜尼崎市指定文化財＞
- ・豊臣秀吉朱印状[10月25日、田辺入道他2名宛]【長浜城歴史博物館蔵】
- ・石田三成書状[9月14日、真林坊宛]【本興寺蔵】＜尼崎市指定文化財＞

(3) 軍事への関与

- ・ゑ入り太閤記【当館蔵】
- ・南禅寺前住玄圃和尚尺牘【長遠寺蔵】＜尼崎市指定文化財＞
- ・豊臣秀吉朱印九州攻陣立書【大阪城天守閣蔵】

(4) 社寺の造営

- ・豊臣秀吉朱印状[11月20日、関白宛]【大阪城天守閣蔵】
- ・金峯山寺擬宝珠（旧吉野大橋擬宝珠）【金峯山寺蔵】
- ・中山寺太子堂鰐口[慶長8年12月吉日]【中山寺蔵】＜宝塚市指定文化財＞

(5) 太閤検地

- ・石田三成掟書[天正17年卯月19日]【個人蔵(当館寄託)】＜尼崎市指定文化財＞
- ・摂州河辺郡椎堂村検地帳[文禄3年10月吉日]【個人蔵(当館寄託)】
- ・摂津国武庫郡之内友行村御検地帳[文禄3年9月4日]【友行部落有文書(当館寄託)】

(6) 大坂の陣

- ・豊臣秀頼黒印状【当館蔵】
- ・慶長十九年大坂冬御陣図【当館蔵】
- ・下間(池田)家系譜【個人蔵(たつの市埋蔵文化財センター寄託)】

(7) 尼崎藩主、そして林田へ

- ・天正拾九年摂津一国高御改帳【個人蔵】
- ・徳川秀忠朱印状[元和3年9月11日]【個人蔵】
- ・寛文武鑑【当館蔵】

8 関連事業

(1) 特別展記念講演会

外部講師による講演会を、会期中の土曜日又は日曜日の午後に開催する。

(2) 水曜歴史講座

当館学芸員による講座を、会期中の毎月第2水曜日に開催する。

10月 8日(水) 午後2時～4時

11月12日(水) 午後2時～4時

(3) ギャラリートーク

担当学芸員による展示解説を、会期中の土曜日・日曜日に計5回程度開催する。

以 上